

記憶に残る私の仕事,そしてあの街

北京「長富宮飯店」プロジェクト 1985年

1980年日中鋼構造技術懇談会に始まり、1993年第1回日中建築構造技術交流会へと続く

安部重孝



私の海外とのお付き合いは1976年の米国における「サンフランシスコ日航ホテル」設計に始まったが、中国とのお付き合いは、1980年日中鋼構造技術懇談会に始まった。

1976年第一次天安門事件、周恩来没、毛沢東没、そして1978年日中平和友好条約、鄧小平が活躍し始めたところで、1980年10月28日、メンバー15人は成田を出発し、眼下の写真を撮ってはいけないと言われて、緊張して北京空港に降りた。

北京では人民服の多くの人波、自転車の波の中を、まず、冶金工業省、建築学会等表敬訪問しました。技術懇談会は鉄鋼・建築・鋼橋・容器等鋼構造に関する、幅広い分野の話題でした。中側の建築では北京市設計院の構造のトップ・写真の私の左の郁彦先生は中国の建築基準もまとめられている方で、その後、日本の中国大使館建設の設計に関し来日された時もお会いし親交を深めました。

1985年、新日鉄の「稲山プロジェクト」と称した、北京市の「長富宮プロジェクト」を担当し、北京市設計院と協同設計となり、ここで、北京市設計院の構造のトップ胡慶昌先生、構造担当崔鴻超さんと鉄骨造20階建の「長富宮飯店」の構造設計をすることになりました。

そして、崔鴻超さんが日本研修され、そのなかでの日本の構造技術者への働きかけと故梅村東大名誉教授の日中建築構造技術者は交流すべきとのご意思で、1993年10月「第1回日中建築構造技術交流会」が北京・清華大学で開催され、胡慶昌先生、崔鴻超さんとの交流を深めた。その

後、原則隔年おきに中国各地で日中建築構造技術交流会を開催し、昨年2010年9月、初めて日本開催「第9回日中建築構造技術交流会」を東京・日大駿河台で行った。

2008年の四川地震、今年3月11日の東日本大震災では、相互に現地視察検討会を行った。

既に、郁彦先生と胡慶昌先生は鬼籍に入られ、崔鴻超さんと日中交流会を続けている。



1980年日中鋼構造技術懇談会にて



1993年第1回日中建築構造技術交流会北京・清華大学



2011年長富宮飯店



1980年日中鋼構造技術懇談会のときの北京